

【子牛の関節炎】

【はじめに】

皆さんこんにちは！ 体重が落ちてきて調子に乗っていたところ細めのマンパスに挟まりました新人の岩泉です。

先月号では臍の病気について掲載しましたが、今回は子牛の関節炎についてです。

子牛の関節炎は臍帯炎と同じく、頻繁に起こるわけではないけれど起こると後々大変なことになる病気というのが僕のイメージです。そんな関節炎について、

- ①関節炎とは
- ②原因
- ③治療+予防

の3つに分けて紹介したいと思います。

【①関節炎とは】

関節炎は関節を構成している骨・軟骨・靭帯・潤滑油である関節液などに炎症が起こっている状態です。外観では単に関節が腫れているように見えても、実は炎症を起こしている病巣は別々であったりします。炎症が起きている場所によりいろいろと呼び方はありますが、今回は子牛で最も多い多発性感染性関節炎を関節炎として説明していきたいと思います。多発性感染性関節炎なんて長ったらしい名前ですが、読んで字のごとく

多発性→一か所以上に

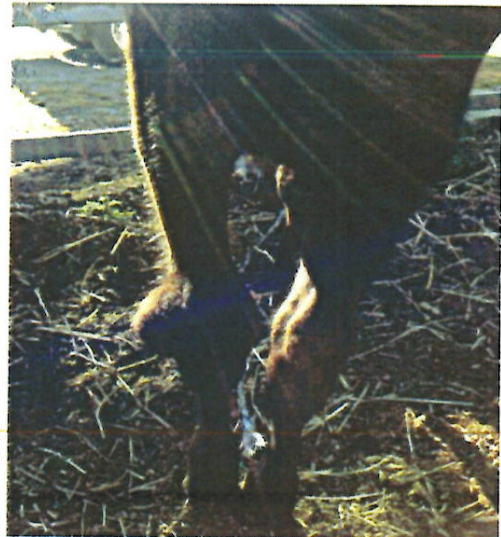
感染性→菌がやってきて

関節炎→関節で炎症が起こる

という病気です。

症状として、突然足を着けないほどの跛行を示す・関節が腫れて触ると熱や痛みがある・寝起きが悪い等が挙げられます。

また、進行すると関節の腫れだけでなく発熱や食欲不振など全身に影響を及ぼすこともあり、全身症状が出なくても腫れた関節が固くなり足を曲げ伸ばし出来なくなる・感染によって関節の骨が溶けてしまうなんてこともあります。



【②原因】

子牛の関節炎の原因は主に2つあります。

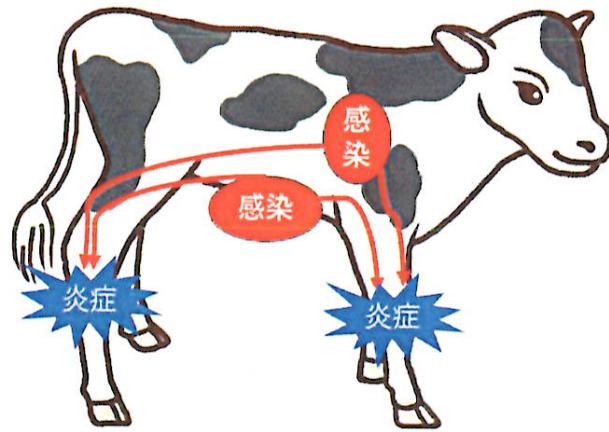
①体のどこかにある細菌などが関節に移動してくる

②初乳からの移行免疫が足りない特に、生後4週間ほどで起こる関節炎は臍帯や肺に侵入した菌が血液やリンパの流れに乗って関節に移動して炎症を起こします。

ここが重要なのでもう一度！

「血液やリンパの流れに乗って」関節に菌がやって来ます。そのため、傷が見当たらないのに腫れていたり、複数の関節が腫れたりするのが特徴です。

また、とある本にはこのような記述がありました。「臍膿瘍を持つ子牛の多くは関節疾患まで進展しない」つまり、臍帯炎で臍がポッコリ腫れている牛は関節炎になることは少なく逆に、臍が腫れていなくても臍が原因で関節炎になることが多いというわけです。ややこしいですが、何が言いたいかというと「子牛の関節炎は予想しづらい！！」ということです。



【②治療+予防】

治療はまず抗生物質の投与が必須となってきます。この時注意したいのが、関節液に到達する抗生物質であることです。具体的には、ペニシリン・トリメトプリム・OTC、セフトリオキサールなど乳房炎治療でもよく使う薬です。初回に効果があれば2週間程度継続して投与します。

しかし、進行した関節炎（触ると固い、足を曲げない等）では抗生物質や抗炎症薬（デキサメタゾン・フルニキシン・メタカムなど）だけでは治癒は難しく、全身症状がなかったとしても関節は腫れたまま元に戻らなくなることが多いです。関節を切開して洗浄する方法もありますが、1か月程度こまめに洗浄を行う必要があり、牛にも農家さんにも大きな負担となってしまいます。

以上のように、関節炎は

- ①発生を予想しづらい
- ②治療に時間と手間がかかる
- ③予後が悪い

と3拍子揃ったかなりの強敵です。予防+早期発見が大切になってきます。予防は前回掲載した臍の消毒と良質な初乳の給与が重要であり、臍からの感染をブロックしつつ感染しても対抗できる免疫力をつけさせましょう。また、感染初期の段階（関節が柔らかい、腫

れてきた直後)のほうが前述した治療の反応が良く、関節切開の効果も得やすいようなので自家治療をなさっている農家さんでも関節の腫れに関しては早めに獣医に相談することをお勧めいたします。

～雑談～

今月の減量結果を発表します！！

4月1日：108kg

5月8日：98.5 kg

6月10日：94 kg

あれ？あんまり減りませんでしたね・・・

でもめげずに明日もキャベツ食べて頑張ります！！

岩泉